

報恩講

11月27日(日) 午後1時

浄土真宗にとって、もっとも大切な仏事です。

親ら聖人のご命日をご縁として私たちに救って
くださる仏さま(阿彌陀如来)、そして聖人をはじめ
先づいていかれた方々のお導きによってこの私が念仏の
み教えに出会い、生きる依りどころをいただいている
ご恩にお礼を申しあげる法要です。

是非 おまいりください。

しんらん同人

No.571

11・12
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

副住職・古賀明徳が、十月末より本山の伝道院で「栴教研究課程」を受講しています。半年にわたり、五期間・延べ四十日に及ぶ研修です。

研修に持参する参考書や衣服の準備をしている様子を見てみると、改めて「宗教とは何か」を考えさせられた次第です。

私達は、衣食住さえ確保されていれば、その状況に満足してその他の事は何も考えずに生活していくのでしょうか。

生活の更なる向上と安定を目指したい。他人から認めてもらいたい。何のために生きているのだろうか、そこに意味を持ちたい。こうした様々な思いや疑問が発生し、その問題の解決に向かおうとする生き物であります。

一方で、どんなに努力しても解決できない問題も残ります。

(例えば、いつまでも若々しく生きていたい、死にたくない、生老病死をどの様に考え受け止めればいいのか?等々)

その時、私達は自分の無力と底知れない不安を感じてしまいます。そして、このようにギリギリの状態まで考えた時に、人を超越したものの存在や力に思いを巡らせることもあります。

こうして生まれたものが、哲学であり宗教であります。

人は、宗教的な考えによって、不安や恐怖を安定させようとしませんが、問題の深さや多様性により、多くの宗教が現れることとなり、ひとたび成立した宗教は、社会の文化として生活の中に定着していきます。

日々複雑化していく現代において、宗教は・お寺は・どうあるべきか。考えさせられたひとときでした。

すべておまかせ

誓願寺初代住職 故岡本 泰雄

Vol. 1

「すべておまかせ」の内容は、令和四年十一月十二月号、令和五年一・二月号の二回に分けて掲載致します。

如来様の御本願を信ずるということ。そこに安心させていた
だき定まる道を述べてあるのが「安心決定鈔」であります。

そこには、最初から最後まで、なぜ本願を信じ、どう安心さ
せてもらうのかということ説いてあるのが、この聖教であり
ます。

一般の真宗の聖典を開いてみても「安心決定鈔」は出ており
ませんが、第八代の蓮如上人は、「安心決定鈔」を何度も読ま
していただくが、その度に有難い。この様なお聖教は、今まで
ご縁にあったことがないと非常に称賛されています。一般的に
はあまり知られていないと思われるのでありますが、私にもご
縁がありましたので、その中の一部を味合わせていただきたく
と思います。

言うまでもなく、私共の教えは浄土真宗の教えでありま
す。「本願を信じるのが根本になります。その他はなにもな
いんです。」

信じたから儲かったとか、そういうことを目的とした教えと
は違うのであります。

本当に如来様の本願を信じ、今日を生かしていただく、安心
して命を終わらせていただけると、そういう人間のいよいよき
りぎりの問題の解決をしていただくのが浄土真宗の教えであり

ます。

そういう意味から申ししましても、実は真宗の教えというの
は、非常にやさしい、これ以上やさしい教えはないのですが、
一面から考えると非常にむずかしい。なぜむずかしいかとい
うと、こちらからはからいが、全然用事がないものですから、
どうしようかと思っている自分の気持ちにあわないのでありま
す。

信心しなさい、そうしたらこういう風に儲かりますとか、信
心しなさいそうしたらこういう幸せがありますよ、と言われる
と、それじゃあ儲かるために・幸せになるために信心しよう
という気持ちになるのであります。

真宗の教えは信じたら、こうなりますよという教えではあり
ません。それではどういう教えであるかという、聴くよりほ
かに・如来の御本願を聞かせて頂いて安心させていただくより
ほかに生きる道はないということを知らせてもらうのが真実の
教えであります。

人間には必ず最後の時があります。元気な時は、ああし
ようしようと考えますが、例えば、思いもかけない病気にか
り余命を宣告されますと、力になるものは何もないのですね。

出来るだけ健康でありたい、それが出来る間はまだいいん
ですけれどもね。

やがて終わりの時が来るのじゃないかと思えますけども、し
かしながら今味あわせていただける。有難いことには、いつで
も、どうなってもいいんだと、どこでどうなるうとも、今日を
通して生かし、そしてやがては安養の浄土に参らせずにはおか

ないという如来様の願いの中に抱かれているんだ、ということ
を味あわせてもらう時に、どちらになってもよろしいという気
持ちと申しますかね、本当にこのみ教えに会わせていただきま
したからこそ、この幸せの心を頂戴したのだなと思うと、あり
がたいなあ、味あわせていただくことが出来るわけです。

まだお金で解決できるか、何かを持ってくれば始末が付けら
れるといった問題ならいいんですけれども、何をもってきても
解決のつかないもの・後生の一大事。まだ生きている、生きら
れる時には、後生の一大事なんて言えないかもしれない。

もうかなりの年になってきた、この人生もこれで終わりにな
るんだという頃になってきますと、安心して今日を生きるこ
とが出来たろうかということ、考えざるを得なくなりませ
ね。

だから、昔からこの問題については、本当に自分が年を取っ
てみると味わいが分かった人がありますけれども、若い
うちは中々それは考えられないですね。

かなりの年齢になってくると周囲の人の状況なんかを見て、
あんなに元気だった人が先に逝ってしまったのかと思います。
そんな時には、よく自分は生きているなとつくづく思います
ね。

あんなにお元気だった人が逝ってしまったら、やがては自分
の上で起こることは間違いないでしょうけれども、いまだ他人
事という感じが抜けないのであります。でもこのような悲しみ
の場にあうたびに、「うかうかしてはだめだぞ」と、催促され
ているのではないかとという気持ちもするのです。

このようなご縁に会わせていただいて、自分の不安とか心配

が何によって解決できるのかというと、如来の御本願を信ずる
という、これ一つなんですね。これがいわゆる後生の一大事
であります。

お金をもってきてもダメ。どんな面白い話を持ってこられて
もどうにもなりません。素晴らしい名医に会い、いいお薬を頂
戴しても、それは治らないんですね。

結局はみんなこの人生を、本当に寂しいことであっても、さ
よならしていかなきゃならん時がやがて来るわけでありませぬ。

そうしますと、安心して生きる、安心して死んでいけるとい
うこと。いつどうなってもよろしいという気持ちで生きること
が、本当に安心して生きられるということでしょう。

どうなるのかなあ、先の事はさっぱり分からないなあ、とい
う不安があったら、今日が不安になるのです。だから、後生の
一大事が解決して如来様のおはからい一つよ、とお慈悲に任せ
て安心して生きていくことが、本当にいま生きていると
いうことではないでしょうか。

これは何をもってきても解決のつけようがない、本願を信ず
るといふ如来のおはからいにお任せするというほかにないので
すね。

そういった根本の問題、人間の究極の問題を解きほぐしてい
く。どうすれば如来の御本願を信ずることが出来るのかという
ことを、こまごまとお説きくださっているのが、安心決定鈔で
あります。

令和五年一・二月号に続きます。

ご法座等 のご案内

関東地方にコロナによる緊急事態宣言が発令されている期間は、諸活動を中止致します。ただし蔓延防止期間中は活動の予定です。詳細は「ホームページ」等でご確認ください。

11月

11・13 (日)

■午前十時

定例法座

【八幡真衣師（石川県）】

■正午

医療相談

【佐藤公彦医師】

医療相談終了後に軽食を取り、仏具のお磨き、本堂の掃除を行います。

11・20 (日)

■午前十時

なかよしクラブ

（乳幼児から小学生までとその保護者）

■午後一時

報恩講・祥月命日合同法要

【山本撰叡師（大阪府）】

12月

12・11 (日)

■午前十時

定例法座・祥月命日合同法要

【上野隆平師（京都府）】

■正午

医療相談

【佐藤公彦医師】

■午前十時
なかよしクラブ
（乳幼児から小学生までとその保護者）

12・31 (土)

■午前零時

除夜会

年越しの鐘を撞きます。
（自由にご参加ください。）

1・1 (日)

■午後一時

元日会

1月

12月の第4日曜日の法座はありません。ご注意ください。

編集後記



・坊守のカレーライスを食べたい方は、「十一月十三日のお磨き」において下さい。定例法座後にカレー軽食で休憩し、報恩講に向けての「本堂・仏具のお磨き」を皆様方と致します。

・コロナワクチンの第五回目接種券が届きました。お寺関係者にも、コロナ感染の話が伝わっています。気を抜かず自己防衛をしっかりと致しましょう。

・カレンダーへの法座日程押印を中止し、スケジュール表を同封いたします。法座は基本的に第二日曜日（午前十時）。第四日曜日（午後一時）開催です。



〔年末恒例の干し柿づくりをしました〕



〔東京教区
北組仏教婦人会連盟
結成三十周年記念の集い〕

